

NSシート 施工手順

雨水など常時水のかかる可能性がある場所では、床材の裏面に水が回ると、水分によって接着剤が無効化し、床材の膨れ・剥がれ、カビの増殖や異臭がおこる可能性があります。このような場所では、溶接や巻上げ施工によって、できるだけ裏面に水が回り込まない施工をする必要があります。

施工条件

- 下地は平滑で湿気のないこと（コンクリート・モルタル水分計でモルタル換算値8%以下）を条件とします。
- 下地に湿気がある場合（コンクリート・モルタル水分計でモルタル換算値8～10%）は、耐湿工法を採用してください。10%以上の湿気のある場合は施工を中止してください。
- 集合住宅の開放廊下やバルコニー、プールサイドでは、雨水やプールの水などが床材の裏面に回ると、床材に膨れや剥がれなどの不具合が発生する可能性がありますので継目処理、端部処理を適切に行ってください。
- プールサイドでは、下地を水勾配2/100～3/100に仕上げてください。

施工上のご注意

- 工法については、各製品頁をご覧ください。
- 開放廊下は耐湿工法が標準となります。
- ルーフバルコニー等の下地で多く採用される「防水層+押えコンクリート」は構造上、常に多量の水分を含むおそれがあります。シートの膨れや剥がれの原因となるため、施工はおすすめできません。
- 吸水性の少ない・吸水性のない下地に施工する場合や、施工後著しいキャストの往来が予想される場合は、東リ総合カタログ「各種床材の下地別接着剤早見表」をご参照ください。

施工方法

①下地の確認

床材を貼る下地としての条件に適しているかどうかチェック。湿気のない平滑な床であることが大切。凹凸があれば、ケレンや補修材による補修をしておきます。

②材料納入・仮敷き

仮敷きをして、巻き癖などをとります。

③下地の清掃

下地のホコリ、ゴミを除去します。

④床材の割付け・粗切り

できるだけ目地が少なくなるように、また端部に細かいカットが入らないように割付けし、多少長めにカットしておきます。輸送・保管中にシートの耳が破損している場合は、耳落しを行います。

⑤端部のカット

壁際は、巾定規やパースクライバーを用いて削いでからカットします。

⑥接着剤の塗布

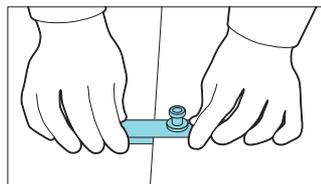
下地や用途に合った接着剤を塗布します。マンション通路等の半屋外には、耐湿工法用接着剤を使用します。

⑦シートの貼付け

エアを巻込んだり、たるみが出ないように、中央から空気を追い出すようにして貼付けます。

⑧目地部のカット

スクライバー等だけがいてからカットします。（落し込み工法）



⑨圧着・エア抜き

目地部分をハンドローラーでしっかりと圧着します。

⑩養生・確認

接着剤などによる汚れなど不備な点がないかチェックし、必要に応じて養生します。

継目処理

■専用溶接棒を使用する場合

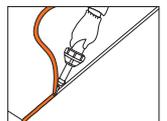
①溝切り

接着剤が十分に硬化した後、目地部分を溝切り機か溝切りカッターでUまたはVカットします。



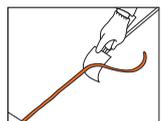
②熱風溶接

専用溶接棒を熱風溶接します。



③余盛り部分カット

スパトラナイフ等を用いて余盛り部分をカットし、十分に冷えてから仕上げカットを行います。



幅カットシステム

東リ NS800 幅カットシステム

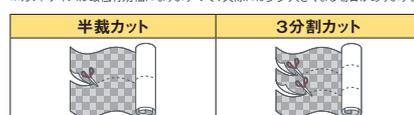
NS800の各幅サイズを、有償にて「半裁」「3分割」に幅をカットするシステムです。

■対象商品 NSシート NS800

■幅カットサイズ

基準幅	1820mm幅	1620mm幅	1320mm幅
半裁カット	900mm×2本	800mm×2本	650mm×2本
3分割カット	600mm×3本	530mm×3本	430mm×3本

※カットサイズは最低有効幅になりますので、実際には多少大きくなる場合があります。



■受注条件

条件	1本あたり 3m以上10m以下
対応倉庫	東リ中央物流センター出荷分のみ
納期・カット代	東リ営業所にお問合わせください。

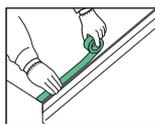
■ご注意

- カットするサイズのご指定や、NS800以外の商品でのご発注はお受けできません。
- 柄合わせはできませんので、ご注意ください。
- 幅カットした場合は、全て出荷させていただきます。（例：半裁▶2本出荷、3分割▶3本出荷）
- 同一オーダーの場合でも基準幅と幅カットのロットは変わることがあります。
- 同一オーダー内で幅カットし、貼合わせするとシートの耳部と中央部での幅継ぎになることで若干の色差が生じる場合があります。

端部処理

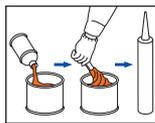
①マスキングテープの使用

シールする周辺を汚さないように、マスキングテープを貼ります。塗布表面のゴミ、ホコリなどを除去、水分のないことを確認します。



②東リNSシールの混合

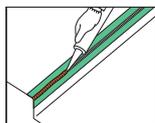
東リNSシールのB液をA液缶中に入れ、色が均一になるまで攪拌し、カートリッジに注入します。



(東リNSシールⅡは、攪拌の必要はありません。)

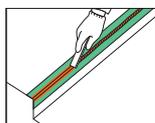
③充填

カートリッジをコーキングガンに装着し、ノズルの先端を斜めにカットし、シート端部に充填します。



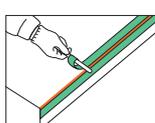
④平滑にする

端部に東リNSシールを充填後、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。



⑤マスキングテープの除去、養生

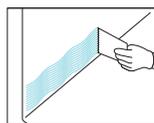
表面を仕上げた後、マスキングテープを取除き 約24時間養生します。実際に使用できるのは2～3日後です。



巻上げ施工

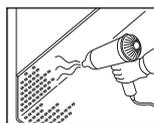
①接着剤塗布

巻上げ部分にも接着剤を塗布します。



②貼付け

巻上げ部分のシートを巻上げて貼付けます。シートが硬く、巻上がらない時には、ドライヤーなどで温めて柔らかくしてから巻上げます。必要に応じてR部材を利用してください。

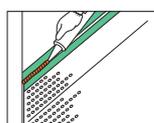


③カット

巻上げた端部が気になる時は、東リNSシールまたは市販のアングルを用いて小口を処理します。

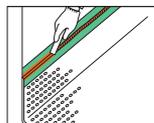
④東リNSシールで処理する場合 — 充填

マスキングテープで周囲を養生した後、東リNSシールを充填します。



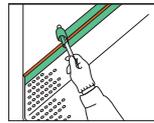
⑤東リNSシールで処理する場合 — 平滑にする

充填後、すぐに仕上げ用のヘラで表面を平滑に仕上げます。



⑥東リNSシールで処理する場合 — 養生

マスキングテープを巻取り、約24時間養生します。



⑦出隅

出隅は図のように切込みし、継目部分を溶接または東リNSシールで処理します。



⑧入隅

入隅は図のように切込みし、継目部分を溶接または東リNSシールで処理します。



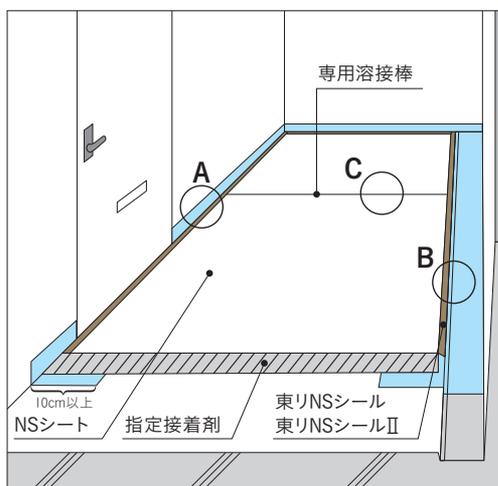
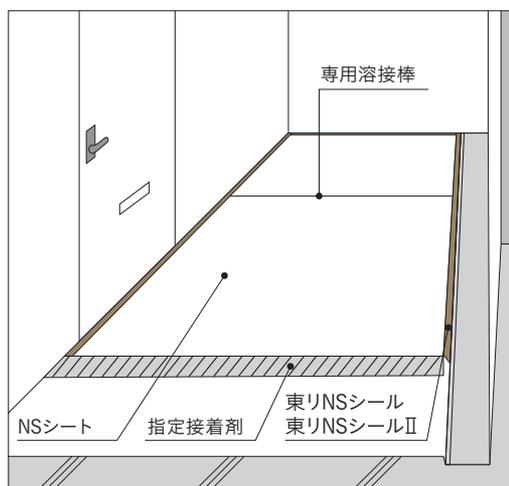
■溝部分 (仕上り例)



■排水溝廻り (仕上り例)

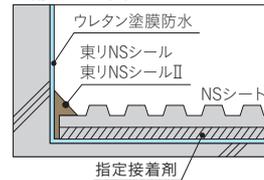


■耐湿工法の納まり図

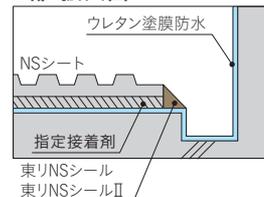


●ウレタン塗膜防水がある場合の一例。

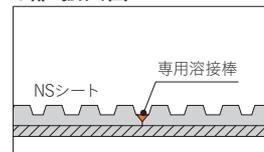
A部 拡大図



B部 拡大図



C部 拡大図



※上記納まり図はイメージです。実際の納まりと異なる場合があります。
 ※金属下地の場合は、耐湿工法で施工します。防錆処理下地が基準となります。
 ※土間床、新築のデッキプレート下地には、耐湿工法を採用してください。
 ※ウレタン塗膜防水のトップコートがフッ素系の場合、端部処理剤は東リNSシールをご使用ください。